

小学校の統合場所を検討するに当たっての
 前提条件と視点・項目別評価表

I 前提条件と視点

前提条件	花見川地区の小学校の統合
(1) 第一小・第二小の統合	(2) 平成27年4月に統合

検討の視点

どの場所が「子どもたちにとって
より良い教育環境」となるのか。

II 項目別評価表

評価項目		案1		案2	
		統合場所：花見川第一小学校		統合場所：花見川第二小学校	
					
		評価	理由	評価	理由
特別支援学級	環境変化による精神的な負担	○	引越しなし	×	引越し1回(1小→2小)
	通学の負担(通学距離・時間)	○	変わらない	△	通学距離・時間が増える子が多い
	車による送迎・利便性	○	学校に入りやすい	△	学校に入りにくい(スクールゾーン)
通学	通学距離の負担	△	2.0km圏内	△	1.7km圏内
	登下校の安全	△	大通りに面している交通量が多い	○	団地内を通学できる交通量が少ない
安心・安全	避難所としての地域に伴う配置バランス	○	団地及び団地周辺の広範囲で良い	○	地理的には団地のまん中に近い
	子どもたちの把握引き渡しのしやすさ	○	大通りに面し、交通便が良い	○	中学校と近く、兄弟がいる場合引き渡ししやすい
交流	小中連携のしやすさ(中学校までの距離)	△	徒歩で行き来できる距離である	○	中学校と隣接している
運動場	小学校設置基準	○	6,176㎡(1人当たり22㎡)	○	7,640㎡(1人当たり27㎡)
	100m直線トラックの確保	×	形状が整っていない	○	形状が整っている
校舎	校舎の形状による子どもたちの把握	△	校長室・職員室から校庭が見にくい一本型で廊下を一気に見通せる	○	校長室・職員室から校庭が見える一本型で廊下を一気に見通せる
	必要教室数(14)	○	保有普通教室数30	○	保有普通教室数31
	工事規模による影響	×	耐震補強の必要箇所→多 老朽改修の必要箇所→多	△	耐震補強の必要箇所→少 老朽改修の必要箇所→多
	工期・引越しの負担(居ながら施工)	△	3年・引越し1回(2小→1小) 既存校舎使用:教室移動あり 仮校舎使用:校庭制限が大きい	△	3年・引越し1回(1小→2小) 既存校舎使用:教室移動あり 仮校舎使用:校庭制限が大きい
	子どもルームの設置	○	空き教室使用/定員40人	○	空き教室使用/定員40人